

平成20年 1 月 9 日
原子力安全対策課
(1 9 - 9 0)
<17時30分記者発表>

高浜発電所 1 号機 1 次冷却材中の放射能濃度の上昇について

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

高浜発電所 1 号機（加圧水型軽水炉；定格電気出力82.6万kW）は、定格熱出力一定運転中の平成20年 1 月 9 日、定例の 1 次冷却材中のヨウ素（I-131）濃度の測定（3 回／週）を行った結果、前回（1 月 7 日）の測定値（約 0.7 Bq/cm³）を上回る値（1.5 Bq/cm³）が確認されたことから、燃料集合体に漏えい^{*}が発生した疑いがあるものと判断した。

現在のヨウ素濃度は、運転上の制限値（57,000 Bq/cm³）に比べて十分に低く、発電所の運転および環境安全上の問題はないと判断されることから、1 次冷却材中の放射能濃度の測定頻度を上げて（ヨウ素濃度：3 回／週→1 回／日、全放射能：1 回／月→1 回／週）監視を強化し、運転を継続する。

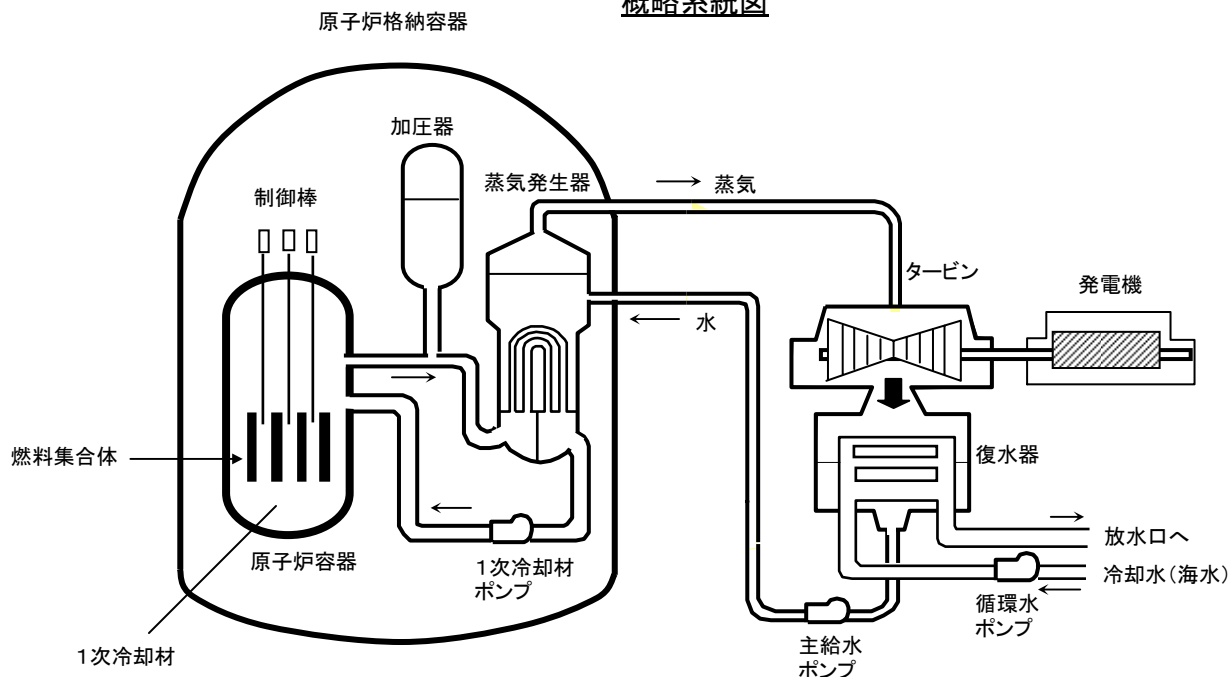
なお、この事象による環境への放射能の影響はない。

※燃料ペレットを収納している燃料被覆管から漏えいがあると、燃料被覆管内のヨウ素が 1 次冷却材中に放出される。このため、1 次冷却材中のヨウ素濃度の変化から、漏えいの有無を判断している。

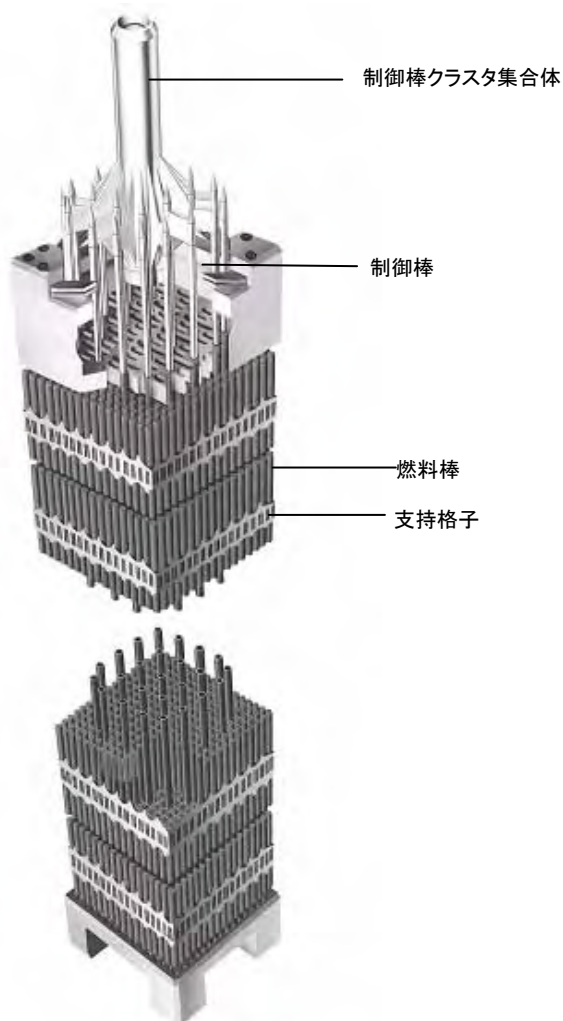
問い合わせ先(担当：藤内) 内線2354・直通0776(20)0314
--

高浜発電所1号機 1次冷却材中の放射能濃度の上昇について

概略系統図



燃料集合体概略図



【燃料集合体の仕様】

燃料タイプ: 15×15型
 全長: 約4m
 全幅: 約20cm
 支持格子数: 7個
 燃料被覆管材質: ジルカロイ-4
 燃料被覆管外径: 約11mm
 燃料被覆管肉厚: 約0.7mm
 装荷体数: 157体

燃料棒

